

写真



写真 (No.102①)
波蝕棚。
波蝕棚と海蝕崖との
間に砂礫が堆積して
いる。



写真 (No.102②)
同上。



写真 (No.102③)
同上。

写真



写真 (No.102④)
波蝕棚。
地質は嘉陽層の砂
岩・泥岩が卓越する
互層である。
走向・傾斜は、
N30E、16° (NW)
で、北西向きに傾い
ている。



写真 (No.102⑤)
同上。

付表- 4.2.2.14(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 101)

No.	101
種類	海蝕洞・石灰洞
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	辺野古崎の北西約 750m の辺野古崎北方海岸の海食崖に発達する海蝕洞である。凸凹の激しい海蝕崖に複数の海蝕洞が形成されている。海蝕洞は嘉陽層の互層で、いくつもの断層やねじれがみられる。
位置	 <div data-bbox="416 1216 850 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.101 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度: 26° 31' 34.2524" ・経度: 128° 02' 54.7736 ・標高(EL): 0.896m ・標高(DL): 2.059m </div>
形状・構造	高さ約 10m、幅約 30m の海蝕崖の下部及び中部に四つの海蝕洞がある。 地質は嘉陽層の砂岩・泥岩が卓越する互層であるが、いくつもの断層やねじれなどの変形がみられる。
規模	露頭に向かって左側の下部の海蝕洞は幅約 1.5m、高さ 1.8m、奥行き 5m と幅約 1m、高さ 3m、奥行き 4m、その隣に幅約 0.5m、高さ 0.8m、奥行き 1m の海蝕洞がある。また右側の海蝕崖中部の海蝕洞は幅約 1.5m、高さ 1m、奥行き 1.5m である。
その他 (保存状態)	保存状態は比較的良好であるが、海蝕崖の下部に位置する海蝕洞の底面には砂が堆積している。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.101 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 34.2524"
- ・経度:128° 02' 54.7736"
- ・標高(EL):0.896m
- ・標高(DL):2.059m



調査地点:No.101(海蝕洞・石灰洞)

撮影日時:2014.6.27 15:35



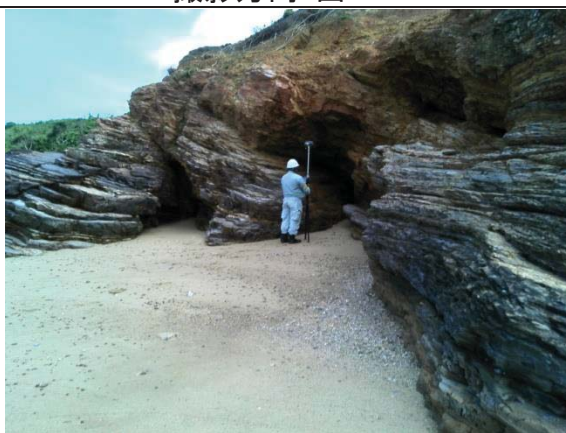
位置情報:緯度 26° 31' 34.51"
経度 128° 02' 55.09"
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 34.34"
経度 128° 02' 55.17"
撮影方向:西



位置情報:緯度 26° 31' 34.60"
経度 128° 02' 54.99"
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 34.65"
経度 128° 02' 54.91"
撮影方向:北東

写真



写真 (No.101①)
海蝕崖にいくつもの
海蝕洞がみられる。



写真 (No.101②)
同上。



写真 (No.101③)
同上。
海蝕崖の前面には
砂が堆積するため、
下部に生成されてい
る海蝕洞の底面にも
砂礫が堆積する。

写真



写真 (No.101④)
海蝕崖に形成されている幾つもの海蝕洞が観察できる。海蝕崖の様々な高さに形成されている。

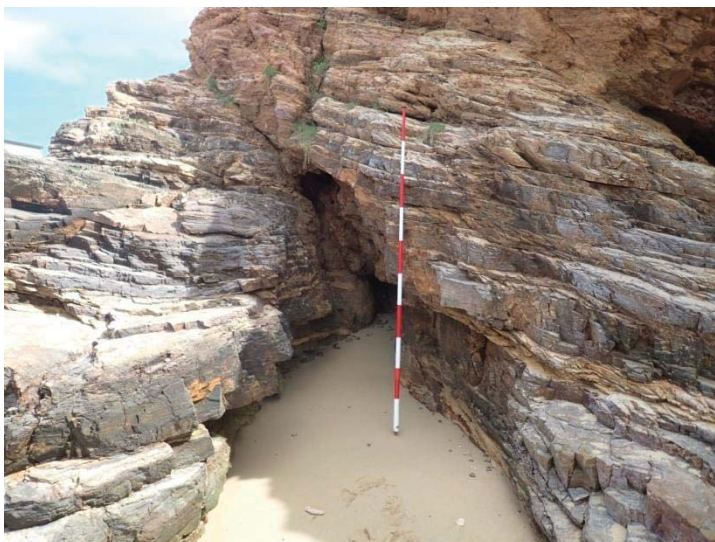
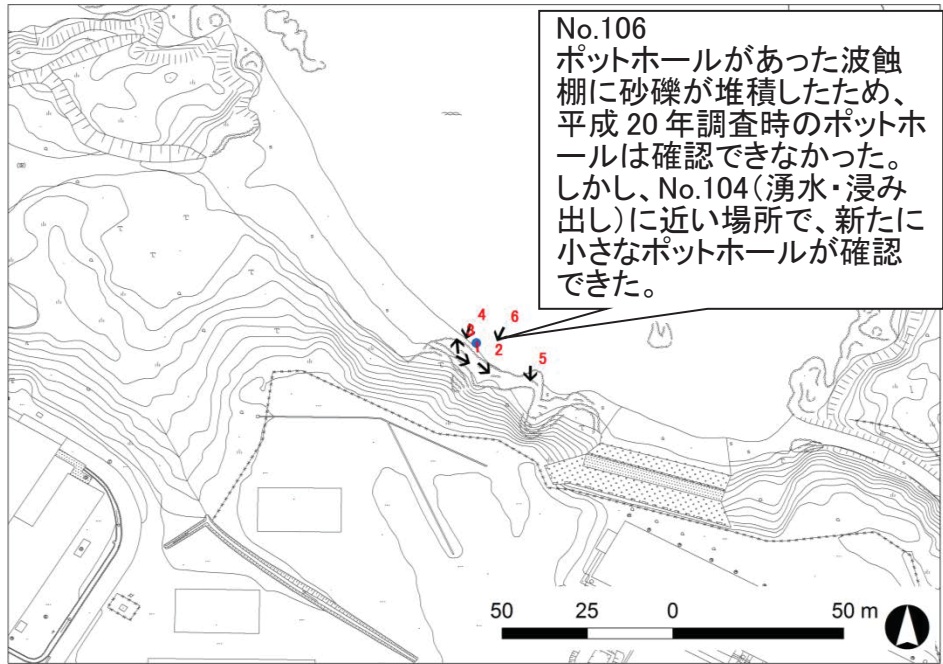


写真 (No.101⑤)
海蝕洞。
地質は嘉陽層の砂岩・泥岩が卓越する互層で、走向・傾斜は、S60W、12°(NW)で、北西向きに傾いている。



写真 (No.101⑥)
同上。

付表- 4.2.2.15(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 106)

No.	106
種類	ポットホール(甌穴)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 670m に位置する波蝕棚に形成されたポットホール。</p> <p>波蝕棚の相当面積が砂礫で埋没されたため、平成 20 年調査時に確認されたポットホールは確認できなかったが、新たに No.104 の湧水箇所に近い場所で小さなポットホールがあることを確認したため、記録に留めた。</p>
位置	 <p>No.106 ポットホールがあった波蝕棚に砂礫が堆積したため、平成 20 年調査時のポットホールは確認できなかった。しかし、No.104(湧水・浸み出し)に近い場所で、新たに小さなポットホールが確認できた。</p> <p>【No.106 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度: 26° 31' 31.6813" ・経度: 128° 02' 57.1062 ・標高(EL): -0.113m ・標高(DL): 1.050m
形状・構造	<p>ポットホールがあった波蝕棚に砂礫が堆積したため、平成 20 年度に調査されたポットホールは確認できなかった。しかし、周辺を捜したところ No.104(湧水)地点に近い場所で新たに直径約 35cm、深さ 10~20cm 程度の小さなポットホール状の微地形を確認した。</p>
規模	<p>新たに確認されたのは、直径約 35cm、深さ 10~20cm 程度の小さなポットホールである。</p>
その他 (保存状態)	<p>平成 20 年度調査で確認されたポットホールは確認できなかったが、波蝕棚に砂礫が堆積したため埋没したものと考えられる。新たに確認できた小さなポットホールも穴に砂泥が堆積しつつある。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.106 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 31.6813"
- ・経度:128° 02' 57.1062"
- ・標高(EL):-0.113m
- ・標高(DL):1.050m



業務名	シュワブ(H25)陸域生物等調査検討
項目	地形改変区域における 重要な地形・地質記録 地形・地質の記録
調査地点	代替施設本体106
期日	平成26年6月27日
発注者	(株)ブレック研究所

調査地点:No.106(ポットホール)

撮影日時:2014.6.27 14:55



位置情報:緯度 26° 31' 31.60"
経度 128° 02' 57.31"
撮影方向:西北西



位置情報:緯度 26° 31' 31.60"
経度 128° 02' 57.22"
撮影方向:西



位置情報:緯度 26° 31' 31.60"
経度 128° 02' 56.91"
撮影方向:東



位置情報:緯度 26° 31' 31.61"
経度 128° 02' 57.01"
撮影方向:北東

付表- 4.2.2.15(3) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.106)



写真 (No.106①)
平成 20 年調査時に
ポットホールが確認
された波蝕棚。
波蝕棚の相当面積
に砂泥が堆積し、ポ
ットホールも砂泥で
埋没されたものと考
えられる。
堆積した土砂は黄
褐色味が強いのが
特徴であり、比較的
最近堆積したものと
みられる。



写真 (No.106②)
同上。



写真 (No.106③)
同上。

写真

写真



写真 (No.106④)
ポットホールのある波蝕棚の陸側の海蝕崖。崖が崩落し、崩落土砂やそこに生育していた樹木の倒木が崖下に堆積している。波蝕棚に堆積した土砂の供給源はこの崩落物質である可能性が高い。




写真 (No.106⑤)
No.104(湧水・浸み出し)に近い場所で新たに見つかった小さなポットホール。赤白ポールが立っている窪地。



写真 (No.106⑥)
同上。
平成20年調査時のポットホールに比べると、直径・深さとも小さい。
底に砂泥が溜まりつつある。

付表- 4.2.2.16(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 104)

No.	104
種類	湧水・浸み出し
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 660m に位置する葉海蝕崖に形成された凹地の湧水・地下水の浸み出し箇所である。</p> <p>天井のない半開状の海蝕洞で、湧水量は No.105 よりも少ない。</p>
位置	 <div data-bbox="411 1205 849 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【No.104 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度: 26° 31' 31.1976" ・経度: 128° 02' 56.9979 ・標高(EL): 1.061m ・標高(DL): 2.224m </div>
形状・構造	<p>海岸からみると、手前の波蝕棚から約 10m 奥まった場所に形成された天井のない半開状の海蝕洞で、波蝕洞の奥まで砂が堆積している。岩盤からの湧水の浸み出し量は No.105(湧水・浸み出し)よりも少ない。</p>
規模	幅約 1.5m、奥行き約 2m で、天井のない半開状の海蝕洞。
その他 (保存状態)	<p>波蝕棚のほうから砂や礫が堆積し、埋まりつつある状況である。この湧水箇所に連続する北側約 30m に位置する崖地には崩落が生じていることから、近い将来この半開状の海蝕洞も崩落する可能性が考えられる。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.104 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 31.1976"
- ・経度:128° 02' 56.9979
- ・標高(EL):1.061m
- ・標高(DL):2.224m



調査地点:No.104(湧水・浸み出し)

撮影日時:2014.6.27 14:42



位置情報:緯度 26° 31' 31.53"
経度 128° 02' 57.25"
撮影方向:南南西



位置情報:緯度 26° 31' 31.49"
経度 128° 02' 57.12"
撮影方向:南南東



位置情報:緯度 26° 31' 31.38"
経度 128° 02' 57.20"
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 31.34"
経度 128° 02' 57.16"
撮影方向:西南西

写真



写真 (No.104①)
海蝕崖が陸側に凹んだ箇所、半開状の海蝕洞が形成されている。



写真 (No.104②)
同上。
海蝕崖の手前には波蝕棚が形成され、その相当面積が砂で埋没している。



写真 (No.104③)
同上。

写真



写真 (No.104④)
半開状の海蝕洞の
奥部の岩盤から地
下水が浸み出して
いる。



写真 (No.104⑤)
半開状の海蝕洞の
奥部の底には砂礫
が堆積している。
礫は扁平な円礫が
多いのが特徴であ
る。



写真 (No.104⑥)
同上。
岩盤から常時地下
水が浸み出して
いる。